



Xross Innovation BOSAI 概要説明資料

2026.04ver



本事業は、想定地震被害の縮減を目指す 仙台市震災対策アクションプランに基づく取り組み

仙台市震災対策アクションプラン

目標

【揺れ・火災対策】

宮城県第五次地震被害想定調査（令和5年11月）において
長町-利府線断層帯地震により想定される死者数を、

今後10年間で、5割以上減少させる。

施策

✓ 地震時における電気火災対策の推進

[主な2つの事業]

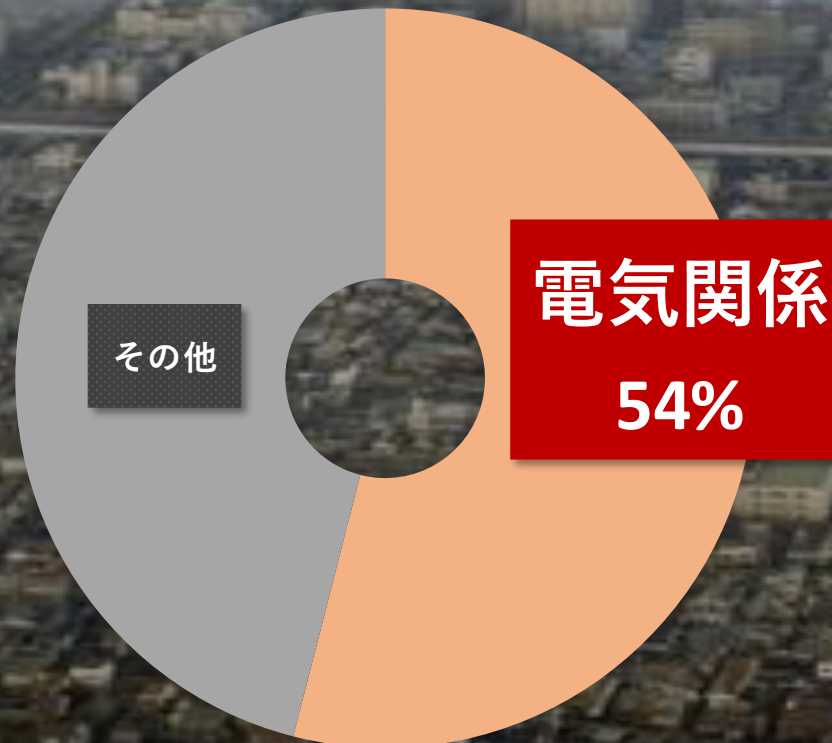
- **産学官金民連携による地震火災対策の推進**
- **感震ブレーカー設置促進事業**

本事業の
位置づけ

地震火災

：地震の揺れによって引き起こされる火災

過去の大規模地震において過半数が電気に起因した火災
初期消火の難しさから電気火災対策が特に重要



(参照)

・消防庁 大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会

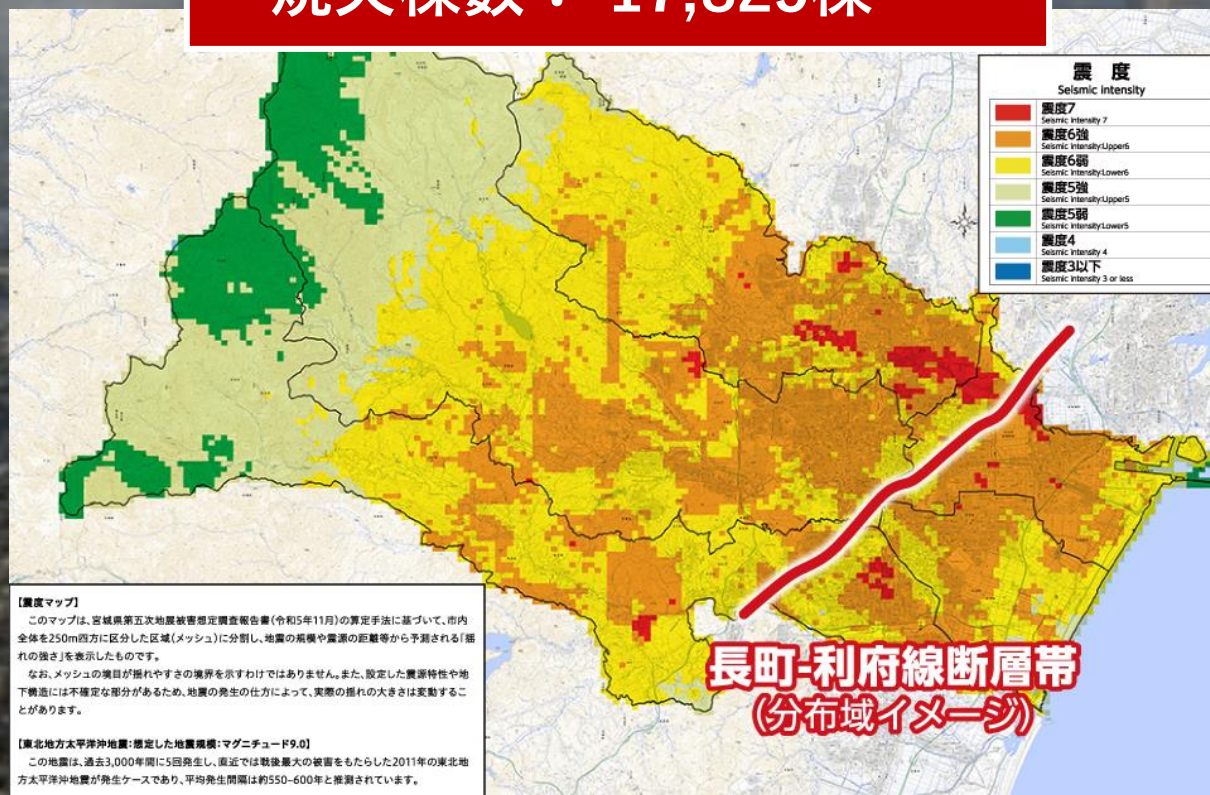
<https://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/>

・神戸市 阪神・淡路大震災

<https://kobe117shinsai.jp/area/magata/f125.php>

仙台市 長町-利府線断層帯地震における 火災による想定被害

死者数 : 845人
焼失棟数 : 17,825棟



出典元: 国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>)

宮城県第五次地震被害想定調査 (令和5年11月)

※「火災による建物全焼棟数」は、地震に伴う火気器具、電気関係からの出火を取り扱い、建物被害と出火率の関係式等から建物が全焼する棟数を表示したものと

本事業は、2015年3月に第3回国連防災世界会議にて採択された
「**仙台防災枠組2015-2030**」の**社会実装**を軸とする

「**ポスト2015開発アジェンダ**」を構成する3つの枠組

SDGs

仙台防災枠組

パリ協定



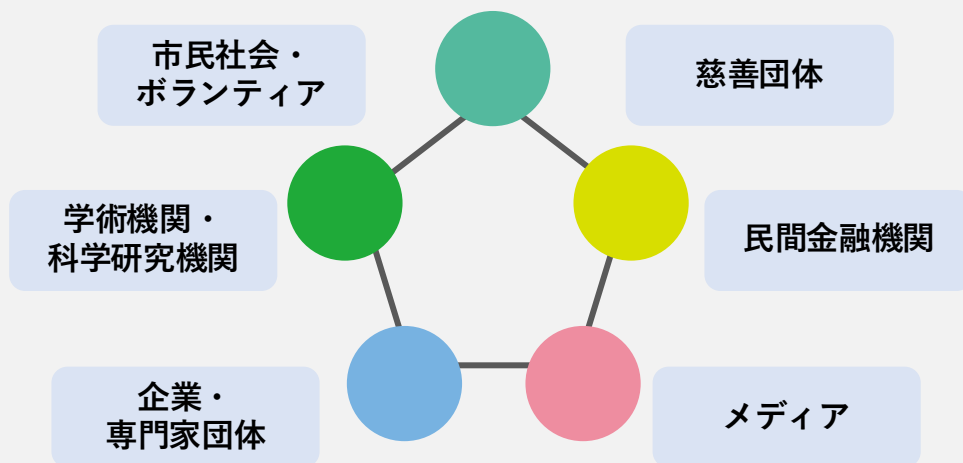
本枠組みを社会実装

本事業は、「**仙台防災枠組**」の**実践**を通じて、
長町-利府線断層帯地震で想定される死者数等の被害削減を目指す。

仙台防災枠組 2015-2030

多様なステークホルダーの連携

さまざまな主体を巻き込む



優先行動の定着化

4つの優先行動を防災の主流へ

1

災害リスクの理解

2

災害リスク管理

3

災害リスク削減投資

4

備えの強化/
より良い復興



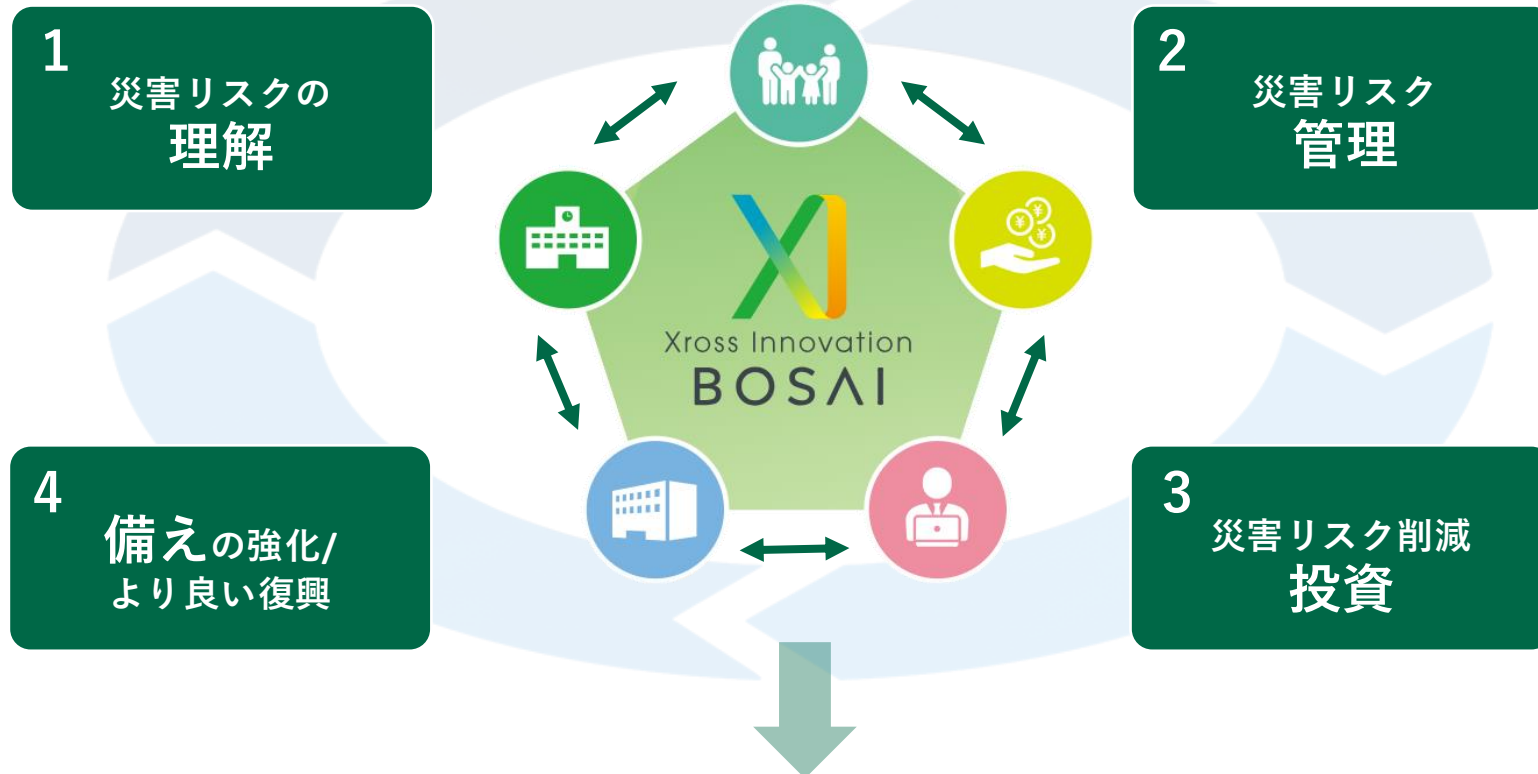
災害リスク及び損失の大幅な削減

多様なステークホルダーが集う連携基盤を構築し

産学官金民の強みを掛け合わせ優先行動に資する取り組みを創出する

世界初

産学官金民連携 イノベーション・エコシステム



想定される死者数等の被害削減を目指す



〈仙台防災推進リーダー〉
うさ防

“減災”の先進都市 仙台から、
世界の災害レジリエンスを共創する。

Xross Innovation BOSAIは、分野や世代、地域や国境を越えて、
多様な知恵と行動が“X（クロス・交差）”し、新たな価値が生まれる共創の場。

災害リスクを理解し、管理する。そして、防災への投資を行う。
備えを強化し、「より良い復興」を目指す—。

国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組の4つの優先行動を、
市民・企業・行政、そして世界の人々と掛け合わせ、
新たな防災イノベーションを共に生み出す、共創のコンソーシアムです。



取り組みを効果的に進めるため、 市民や地域と接するあらゆる機会の活用を図る

市民

- ・ 地震火災のリスクや感震ブレーカーへの理解を深める
- ・ 感震ブレーカーを容易かつ身近に購入・取付できる環境を整える



地域社会

- ・ 感震ブレーカーの面的な広がり
- ・ 既存の様々な活動に地震火災対策を組み込む



行政

- ・ 多様なステークホルダーの力を活かす仕組みづくり



地震火災被害の軽減策として 感震ブレーカーの設置率向上や 火災発生を防止する行動の定着を目指す

感震ブレーカー設置促進

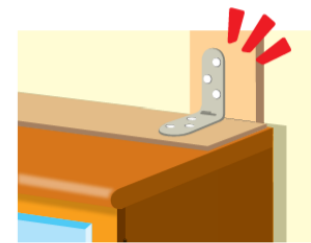
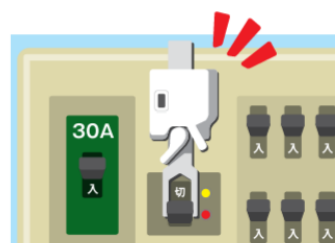
感震ブレーカー設置促進支援事業の実施



火災発生を防止する行動

✓ 避難時に分電盤の
ブレーカーを落とす

✓ 家具等の転倒防止
対策をする



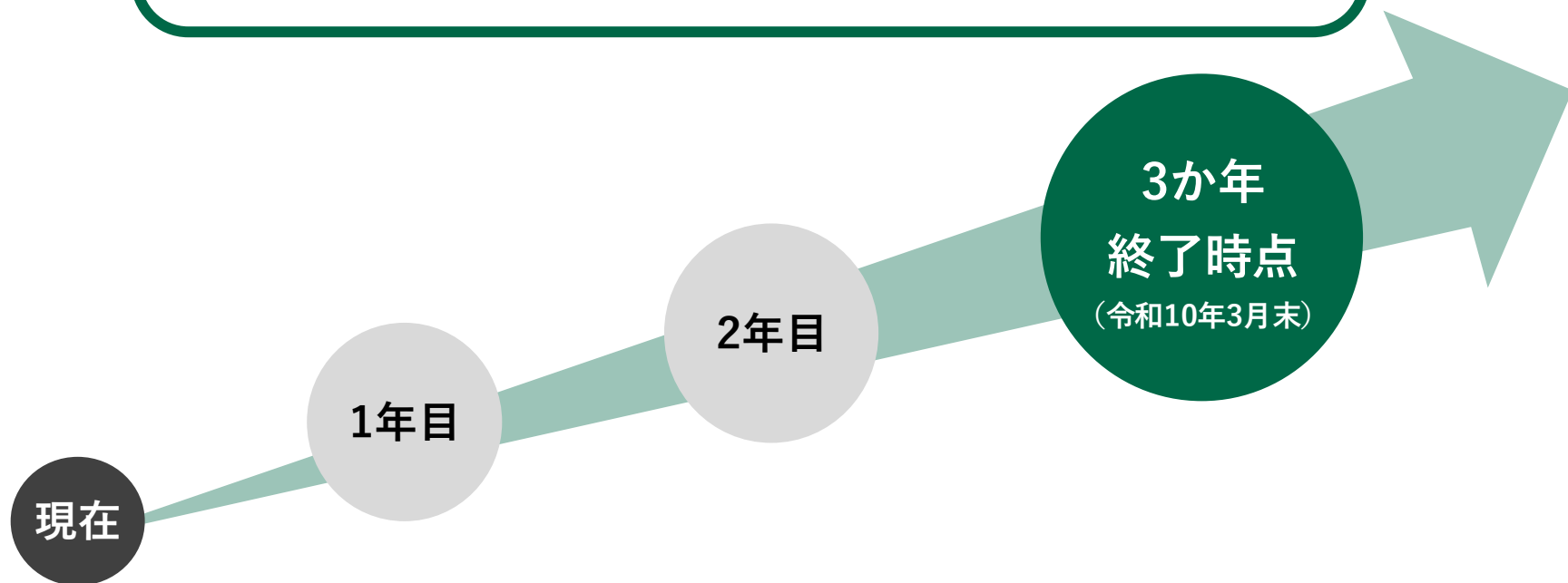
✓ 分電盤のブレーカーはすぐに戻さない



仙台市震災対策アクションプランの達成に向け、3年目の終了時までには、地震火災により甚大な被害が予測される対象地域において次の目標を達成する

【本事業目標】

- ✓ 感震ブレーカー設置率 : 30%以上
- ✓ 火災発生防止行動の認知率 : 90%以上



テーマごとに複数の分科会に分かれて活動。
分科会内で参加企業間で連携しながら、取組を検討・実施



事務局



東京海上日動

dentsu

分科会①

あんしんな暮らし

アイラブアイデア



日本郵便

Q&A



キューアンドエー株式会社

LAWSON

明治安田

分科会②

にぎわう街

AEON



COOP
MIYAGI



POLA

分科会③

地域経済の循環

77 BANK 七十七銀行



東京海上日動

NIPPON KOEI



想いをつなぐ、明日へ進む。

東武トップツアーズ

分科会④

地域共助



東京海上日動



LAWSON

東武トップツアーズ

POLA

Q&A



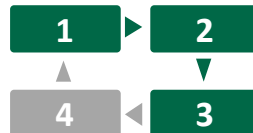
キューアンドエー株式会社



異なる業界の知恵や強みを掛け合わせることで、 他のコンソーシアムにはない独自のイノベーションを創出中

Case.1

複数小売企業合同企画
「仙台防災WEEK」

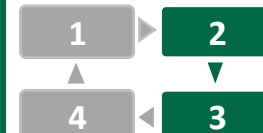


大規模で一貫した防災発信

複数の小売企業の“横連携”によって
単独では実施が難しい大規模で一貫した防災発信を実現

Case.2

地場企業の
レジリエンス強靱化



企業様

顧客接点

防災ソリューション



参画企業の顧客接点を活用し、災害リスクの理解を促進。
各社の防災商材・ソリューションを紹介しBCPから
家庭へ防災対策を推進

具体取り組み例：地域向け取組（地域防災力の強化）

地域の訓練や講演会から日常の備えまで 各地域を地震火災防止の拠点へ

地域主催の訓練や防災講演会に、仙台市と参画企業が同席。

仙台市が、自主防災組織の役員や参加者の地震火災リスクへの理解を促進したのち、

その具体的な備えとして、

感震ブレーカーや保険等の各企業が持つ防災商材・サービスを説明・紹介。

地域や家庭による備えの強化、そして地震火災を想定した防災訓練の実施に繋げる。

※現段階では具体アイデアイメージのため、フィジビリティは本事業の中で検証していく想定

具体取り組み例：市民向け取組（家庭内地震火災対策の強化）

仙台市内に小売店舗を持つ事業者合同 地震火災防止ショッピングキャンペーン

市内実店舗の事業者合同による地震火災防止ショッピングキャンペーンを実施。

店内の啓発ブース設置や、折込チラシに地震火災の備えに関するコラムを掲載し、感震ブレーカー設置などの促進を行う。

また、キャンペーン期間中には、防災用品の購入者を対象に、割引クーポンの適用やポイントの増量も行う。

※現段階では具体アイデアイメージのため、フィジビリティは本事業の中で検証していく想定
※画像は生成AIにて作成しています

具体取り組み例：法人向け取組（企業のレジリエンス向上）

地震火災防止に向けた企業版BCP計画策定支援 地域企業が従業員に家庭での地震火災対策を推奨

銀行が保有する法人（経営者）との接点を活用し、
地震や火災などの災害リスクについて説明を行うとともに、
保険会社が提供する「企業版BCP策定支援サービス」を紹介。

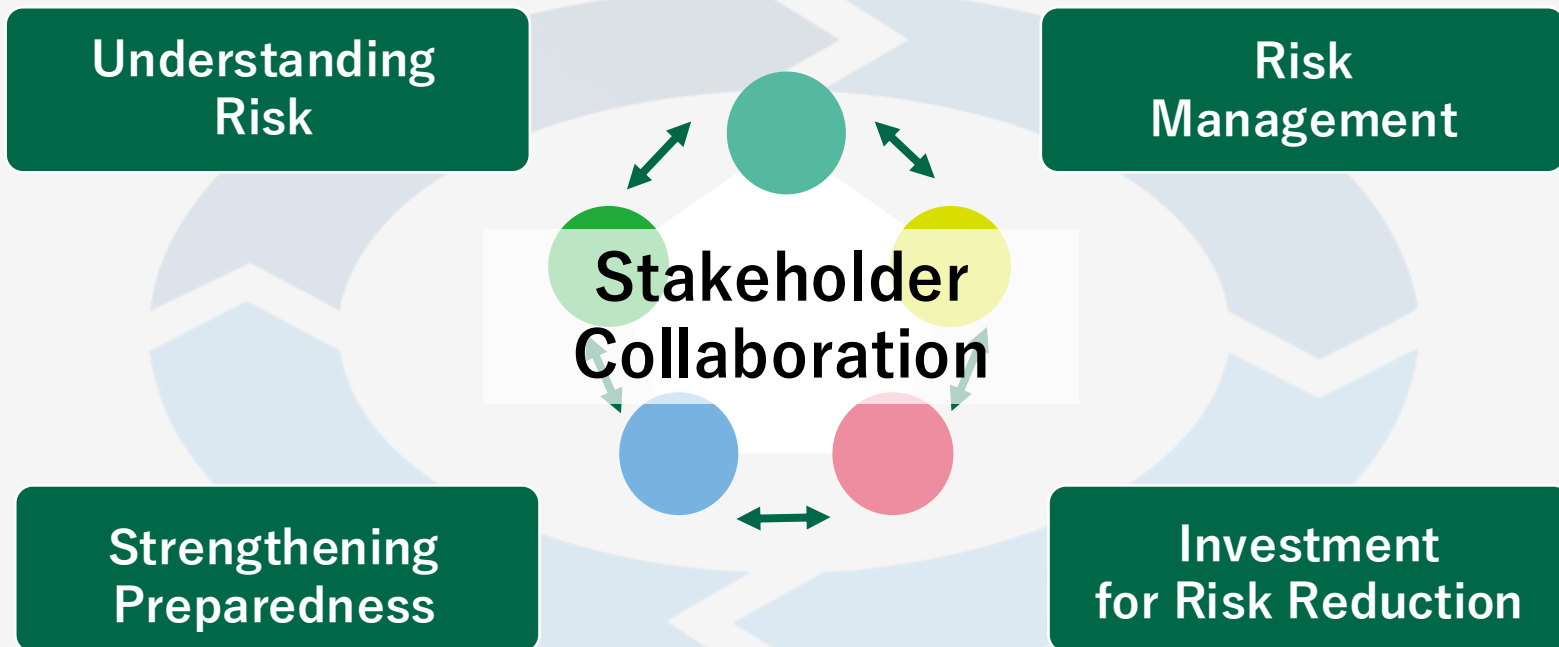
発災時における事業の継続を可能とするため、BCP（事業継続計画）の策定を支援し、
併せて従業員のご家庭における地震・火災対策を促進するため、
地域企業・銀行・保険会社・仙台市が連携して取り組む。

※現段階では具体アイデアイメージのため、フィジビリティは本事業の中で検証していく想定
※画像は生成AIにて作成しています

DRR Innovation Eco(Ego)system : 世界展開可能なモデル

個々のエゴの実現を目指す多様なステークホルダーが連携することで優先行動が循環し、災害リスク及び被害の大幅な削減を実現させることができる。

DRR Innovation Eco(Ego)system



仙台市を”国際的な防災都市”とする象徴的な取り組みへ

DRR Innovation Eco(Ego)systemの実現を通じて、
仙台市と共に、世界展開を見据えたコンソーシアム運営を。



Xross Innovation
BOSAI

オープン
プラットフォーム化



全国地方自治体への
コンソーシアム横展開



世界への
コンソーシアム展開

コンソーシアムWEBサイト



INFORMATION NEWS LETTER MEMBERS



Xross Innovation
BOSAI

“減災”の先進都市・仙台から、世界の災害レジリエンスを共創する